

鷺田清一と ともに考える

⑧ 〈持ち場〉って？／はたらき、かせぎ、であう

2017年10月21日(土) 15:00—17:00

せんだいメディアテーク | 階オープンスクエア

参加無料・申込不要・先着160席

主催：せんだいメディアテーク

玄田有史
(経済学者)

鷺田清一
(せんだいメディアテーク館長／哲学者)

偶然ではあるが、状況のために否応もなく受け持つことになった持ち場において、人々は何を考え、どのように行動したのか。

玄田有史「〈持ち場〉の希望学」より

せんだいメディアテーク館長の鷺田清一が、各分野のプロフェッショナルからお話をうかがいながら、いま、メディアテークを通してみえる社会の課題について、みなさんと共有し、考えを深めていく対話の時間。今回は、若者の雇用に問題提起をおこなった『仕事のなかの曖昧な不安』や、東日本大震災以前より、釜石で取り組んできた「希望学」で注目を浴びている経済学者の玄田有史さんをお迎えします。

「持ち場は職責として事前に決まっていることもあるが、自発的に受け持つこともあるし、たまたま居合わせたために担当することになった場合もある」（『〈持ち場〉の希望学』あとがきより）これまでの「希望学」のとりくみをうかがいながら、〈持ち場〉をキーワードに対話を重ねます。

鷺田清一（わしだきよかず） 哲学者。京都市立芸術大学学長。1949年生まれ。京都大学文学部卒業、同大学院修了。大阪大学教授・総長などを経て、現職。これまで哲学の視点から、身体、他者、言葉、教育、アート、ケアなどを論じるとともに、さまざまな社会・文化批評をおこなってきた。主な著書に、『モードの迷宮』（ちくま学芸文庫、サントリー学芸賞）、『「聴く」ことの力』（ちくま学芸文庫、桑原武夫学芸賞）、『「ぐずぐず」の理由』（角川選書、読売文学賞）、『しんがりの思想』（角川新書）など多数。現在『折々のことば』（朝日新聞）連載中。

玄田有史（げんだ ゆうじ） 経済学者。東京大学社会科学研究所教授。1964年生まれ。東京大学経済学部卒業。同大学院満期退学。2007年より現職。2002年に経済学博士（大阪大学）。主著に『仕事のなかの曖昧な不安』（中央公論新社、サントリー学芸賞）、『ジョブ・クリエイション』（日本経済新聞社、第45回エコノミスト賞、第27回労働関係図書優秀賞）、『希望学』（全4巻 編著 東京大学出版会）。『〈持ち場〉の希望学：釜石と震災、もう一つの記憶』（編著 東京大学出版会）、最新刊に『人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか』（編著 慶応義塾大学出版会）がある。